

西洋化に対抗する—明治初期にアメリカの教科書が小学読本へ

ヨーテボリ大学

マッティン・ノーデボリ

混沌期とも呼ばれている明治の初めは西洋的な措置と同時に国学を基にした政策がとられ、教育分野では洋学と国学がそれぞれヘゲモニーを目指して伝統的な漢学と戦っていた。この明治初期の教育政策を概説するのが本論文の目的で、最初の教科書、特に小学読本明治六年と明治七年版を比較検討する。興味深いのは国作りとナショナリズムの時代でありながら文部省の最初の小学読本をアメリカの教科書から翻訳したことである。

明治維新の政府は始めに伝統的な儒教中心の漢学をやめて、国学主義の政策を採用し、国学派がヘゲモニーを握ったが、一方既に鎖国後、指導者たちは外圧で、欧米先進国に倣おうとして「富国強兵」のローガンをいたるところで使い、一般的西洋化を進めようとしていた。教育制度は国家建設の基礎となり、近代国家の国民を育てると考えられ、文明開化の強調は五箇条の御誓文にも現れ、教育理念に直接関連した、「旧来ノ弊習ヲ破リ、智識ヲ世界ニ求メようとする方針も含んで、その後の明治5年には近代学校を築く学制が發布された。当時の教育についての観念は普通、洋学、漢学と国学三派に別けられ、明治初期は西洋思想が優位を占めると言われている。教育政策は確かにそうで、制度や教材や教官まで欧米、特にアメリカから導入したが、同時に政府の他の部は国学主義の方針を出し、そのうえ新しい思想を掲げた指導者と官僚は子供の頃から漢学と儒学の道徳を学んできた。故にこの論文は西洋思想が採用されていた時期でさえ漢学が重要な役割を果たした、と考える。本論文は明治13年の改正教育令からの国家主義の誕生の時代ではなく、その前の混沌期を取り上げる。唐沢(1957)はこの時代の翻訳教科書は西洋を一般的に美化したことと、この時期が混沌期であったことを考慮すべきだと指摘している。従来の研究は後の日本の国家主義ばかりに注目したが、この論文は混沌期の教科書を取り上げる。

Lincicome (1995)によると明治教育に関する英文での研究は、組織を築く制度や政策を取り上げてきたが、実際に使用された教授法や教科書は顧みられていないので、本論文はその不足を補うべく政府の政策が教科書、特に小学読本、のなかにどのように反映されたかを調べた。教育分野では伝統的な漢学の国学と洋学との対立が激しくなり、学派の食い違いは大学校(明治2年)についての戦いで明らかになった。まず教育の中心は国体と皇道を賛美する国学で、

一時的に漢学からヘゲモニーを奪ったが、洋学との競争が激しくなり、時勢の動きに合致せず明治3年に廃止されてしまった。その後洋学の開成学校を基にして明治十年に東京大学が開始し、教育が儒教的な理念を離れると共に政府は廃藩置県など、国家を統一する政策を開始した。

江戸時代から既に、効果的な行政を可能にする人材の必要性が叫ばれても、中央レベルで教育の変化や四書五経から離れる動きはあまり見られず、一方地方レベルでは洋学を教える藩校がだんだん増えていき、明治維新の直後には劇的に増加して、藩の50%は洋学を教えた。地方レベルでは一つの包括的な制度として人間の平等に基づいた政策が様々な場所で提案されたにも関わらず、中央レベルでは伝統的な身分制度に基づいた考え方がまだ支配的で、激動の時代に漢学のヘゲモニーが継続した。新時代のスローガン、王政復興、維新例尊王攘夷などは中国の歴史から投影されたもので、明治時代という名も儒教の古典からとられ、新首都東京だけでなく通貨の名称も中国をモデルにした。

新首都の名前に関しては西部の京都から東京への地理的移動の方向性を示すと見られているが、首都名に地理的な設定を示す中国の習慣を採用したのも、中国からの日本の継承を象徴しているのかもしれない。日本における中央権力は、中国における野蛮満州帝国による明(支配された明満州帝国)の崩壊後、徳川日本に平和と秩序が継承されたので、中国ではなくて、日本が新たな中央王国であり自分たちを明中国の真の後継者とみなし、強い天皇が率いる中央集権国家は、中国も例にしているとした。書き言葉では文語文はまだ(19世紀の終わりまで)支配的だったので、古典学習の擁護派は、日本での言語の権力者であった。地域の方言の格差を考えると漢文は共通の書き言葉として便利とみなされた上、儒教を反映する漢文が欧米の概念を表す言葉を構築するために使用され、岩倉視察団はヨーロッパやアメリカで観察したことを伝えるために中国語の用語も使用した。

しかし新教育政策は明らかに伝統的な暗記素読に反対して、Pestalozzian教育学に興味を示し、その教育学は、自立した思考を促すため、身近なものから始め子供の自分の世界に焦点をおき、多くの教材、ウィルソンリーダー(*Willson Reader*)、"School and Family Charts"、黒板などがアメリカから取り入れられた。

廃藩置県のおかげで国家教育政策は可能になり文部省が設立され、明治5年の学制で全国小学校の設立が決まった。日本は近代国家になるため、国民皆平等な教育権を有することになり、しかし五万校を建設するという野心的な計画は資金不足のため非現実的なもので、実現するにはかなりの時間を必要とし、出席数はなかなか上がらなかった。国民教育は政府の指示の理解の促進、貿易と産業の振興、将来の管理者を育成するために、また特に日本にとっては文明国とみなされるために必要であった。とはいえ、新しい教育制度が導入した向上心、勤勉、教育の価値などは封建時代と共通するもので、自然権、個人の自由などの西洋的思考方は異質なも

のとなされ、一般的に限られた支持しか受けられなかった。

ここでいくつかウィルソンリーダー、その翻訳とされる2つの小学読本の比較の中で私が注目した例をあげる。

“The Spring-Time”という、春の素晴らしさを取り上げそれを創った神に感謝する話は日本語になると立身出世を奨める話に変わり、小学読本は春の素晴らしさには触れず、“It is the time to plant the seeds of knowledge and virtue”からの文にWillson Readerに入っていない次のような道徳的なメッセージを導入した。(神に感謝するではなく父母と先生の言葉を聞くべくである。)

されば、人として幼少のとき、師の教へに、従事して、道を聞き、一身一家を、立つることを學ぶべし、

Therefore everyone should when young learn to not become like this and devote yourself to the teaching and guidance of your teacher and you should learn to advance yourself and your family.¹

教師は親に代わり、正しい道を子供に教え、子供は教師を自分の親のように敬い、従い、その恩を忘れてはいけない。

又學術を教へて、我資益をなすに由り、父母に等しく、尊敬して、これに従順し、其恩を忘れるべからず

Furthermore, knowledge and skills should be taught for our benefit. Therefore, like our parents, we should respect (our teachers) and be submissive never forgetting our indebtedness.²

“The Book Store”という話では明治六年版はウィルソンリーダーの内容のまま客観的に本屋を説明し、生徒に添付の絵について質問したが、明治七年版では本を買う理由が挿入された。

書なければ、智識を増しこと能はず智識無きときば、國の利益を、興すこと能は

¹ 田中, 小学読本明治七年, 158

² 小学読本明治七年, 158

ず、故に、志ある者は、有用の書をば、金を惜まずして、これを購ふなり。

Without books you cannot increase your knowledge. Without knowledge you cannot make benefit for the country. Therefore those with good will, buy books, regardless of money.³

国の利益は明治指導者のスローガンの一つで、西洋の大国に対抗するために、人々は啓発されなければならなかった。

Kinmonthによると、中村正雄によるSamuel Smilesの“Self-Help”の翻訳でも個人的な進歩は国のためにと強調し、「個人」という語を翻訳する時孔子の用語、家と国家、を避けるのは困難であった。当時のベストセラーは福沢の『学問のすゝめ』と“Self-Help”の翻訳であった。明治六年版で“Work and Play”の話の翻訳に加えられた補足が教育の目的を示している。

さて、人の、世に生れ来るは、元來天工を助けて、國土の用を遂げしむるものなれども、何等の業をも、勉めず、國家の益をなさざるものは、自ら禍を招きて、困窮に陥ることあり、此等は、天に耻ぢ、人に耻ぢ、又我心に耻づること大なり、神明は、妄りに、幸福を與へず、人をして、自らこれを取らしむるものなれば、唯耻を知りて、能く勉強するものは、幸福を得、耻をしらざるものは、困窮貧苦なるものと知るべし、

The reason why man has come to this world is to help in the work of nature (*tenkô*) by using the land for what it was made for. But not working with anything and not making profit for the country will bring calamity to oneself and make you destitute and you will fall into hardships. This is a shame to heaven and a shame to other people and furthermore a great shame to your own heart.

Shinmei does not arbitrarily bestow happiness upon people and does not let them take it themselves. Only those being aware of shame and studying hard will get happiness, those who do not know shame will become destitute and suffer hardships.⁴

小学読本の2つのバージョンが「神」を日本語に訳す時、異なる用語が使われているのも注目に値する。明治六年版では天津神、神明と神という言葉が使用されているが、明治七年版で

³ 小学読本明治七年, 129

⁴ 小学読本明治六年, 165

は神しか使っていない。これは聖書の日本語への翻訳の前(1887)にされたので、標準的な翻訳の不足はそれほど驚くことではないかもしれない。しかし小学読本では神明は神の同意語になり、明治六年版のテキストのマージンにたかみむすび、かみむすび、天照大神の名が載せられ、その神様とあめのみなかめしは政府が設置した大教院で崇められている。このように公の神道イデオロギーがウィルソンリーダーの六年版の翻訳に反映されたとも考えられる。ところがこの神道イデオロギーは急速に弱体化し、それが明治七年版に反映され、洋学がキリスト教のメッセージの世俗化として現われる。キリスト教である用語や内容を除外することそして明治六年版の神道の神様の名前の代わりに明治七年版は一般的な「神」を使っている、と本論文では考える。

国に役立つことについての似通った部分が明治七年版の終わりに現われて、天主を賛美すること(Prasing the Lord)と十戒についての話に代わる。

人の、世に生まれ来しは、天主を助けて、國用を資るものなるに、何等の業も、
勉めず、國家の益を、なさざるものは、自禍を招きて、困窮に陥るべし、此等は、
天に恥じ、人に、恥じ、又我心に、恥ずること、大なり、
Man has come to this world to assist *tenshu* and be useful to the country. By
not working and not making benefit for the nation, rather you invite calamity
upon yourself and become destitute. These kinds of people are a shame to
heaven, to other people and also a big shame to themselves.⁵

興味深いのはここで国だけでなく国家という言葉が使われていることである。

“Youth and Old Age”の話で春と冬が青年時代と老年と比較され、子供は役立つべきという意見はウィルソンリーダーも明らかにしているが、どのような知識が重要かやその使い方は述べていない。明治七年版も役に立つことを強調するが、子供の得られた知識は国家のためのもので、ところが六年版では天主を信じてよい子になるようにと言った年を取った男性のように成長すべきしかのべていない。

Would not you like to have some one tell you just such *true* stories as Uncle
Toby told? All the stories that Uncle Toby told were true. True stories are the

⁵ 小学読本明治六年, 146

*best stories.*⁶

この話の後で小学読本の2つのバージョンは、親の話を書く重要性を子供たちに説き(小児は、謹むて父母の話しを、聴くべし)、「柔順」、「従ふ」、「敬う」、「畏れて」などを強調して、親の言うことを聞くと「智識を増し」などの話が多い。親を政府のように従うべき規則を決め、自由な個人ではなく理想の国民はまだ前の時代の忠臣のようで、政府の教育方針の(身を立つる)ははっきり親と国家の規則に限定されている。(親の訓誡は、國の制律と同じく、敬み畏れて) (“The warnings of parents are like the rules of a country; you must obey them respectfully”).⁷

五箇条の御誓文の「広く会議ヲ興シ万機公論ニ決スベシ」は明治20年まで実現されず、明治初期に権力は政府の少数の指導者に限られ、小学読本の「従う」などの言葉は当時の精神と一致し、個人主義を求める意見は家族の重要な役割によって退けられた。

“Money”という話の翻訳は小学読本の2つのバージョンで主人公が印刷所に勤めているのが排除され、その代わりに男がなぜ裕福になったかを説明し、何年も勉強して、多くの技能を学んで、ウィルソンリーダーのように小学読本もお金を大事に使うべきだと教える。原本で“God”がでていない部分にも「神」を導入し、それにも関わらず、“The Bible tells us that the ‘love of money is the root of all evil’”などは翻訳せず、代わりに「国家のため」は付け加えている。

且世用に、益あることを、工夫すれば、其報も必ず大にして、利を得ること、多きものなりもし骨折れざる業を爲し、或は只一身に利あることを勉むれば、其報必ず小にして、

People who make an immense effort when working for the world, being inventive to be useful will be greatly awarded. However, if you make a large profit by not working hard or only in your own interest the reward will be small.⁸

⁶ 小学読本明治六年, 146

⁷ 小学読本明治六年, 164

⁸ 小学読本明治七年, 165-166.

小学読本の2つのバージョンの終わりにウィルソンリーダーには見られない長い付録があり、その哲学的、抽象的なテキストはおそらく小学生には非常に読みにくかったであろう。これはもしかしたらキリスト教のメッセージを軽減するために伝統的な儒教思想を説明しているのではないだろうか。

父母に事ふるときは孝養なるべく長上に、仕ふるときは、恭順なるべし、兄弟の友愛あるも、朋友の信義あるも、親族の協和なるも、皆禮讓を以て本とす、
You should attend to your parents with devotion, and to your superiors plead allegiance. Fraternity between brothers and fidelity amongst friends and living in harmony with relatives comes from civility.⁹

小学読本も伝統的な儒教の五倫関係を維持し、例えば礼は身を立つの基にして、人慾、放肆、遊惰などを避けるべきで、又貪慾や忿怒に満ちた生活をおくったら正道を見つけないと述べている。(正路を得ること能はず)。

又孟子の名前は出していないが、有名な話で孟子の母親は学問と機織りをくらべ、学問を途中でやめるのは、織りかけていた織物を、途中で断ち切るのと同じで、何の役にも立たないと述べたということも載っている。

以上のように洋学派が強かったとみなされてきた明治初期の、アメリカの教本の翻訳といわれてきた最初の小学用の読本で、明治六年版では国学派の影響が、そして七年版では漢学派の影響がより強く見られる。

⁹ 小学読本明治六年, 167-168.